塩の道其の二

土佐塩の道 保存会

2年前の春、公文寛伸さんら有志8人が庄谷相の山で長い間埋もれたままになっていた丁石を掘り起こし復活の第一歩が始まった。文献を調べ斜面に階段を設け標識を立て、埋もれていた道を整備。旅の安全を祈った道中の馬頭観音も修復した。思いは文化峠を越えて香南市に居る、同市側からも整備に着手した。丁石跡をたどり、直感所や国指定の文化財を経由し2006年に全線30キロの再整備を完了し、香美市と香南市の有志らで土佐塩の道 保存会が結成された。

（高知新聞記事より）

塩などの荷物は馬に背おわせて運んだ。馬の首にはりんがぶら下げており見通しが悪くせまい山道では"りん"を鳴らしながら進んだ。"りん"が聞こえると広い所で待っていてお互い譲りあいながら通行した。

文化峠の周りは「西川文四郎吉康」という人が拓いたと伝えられている。長宗我部地検帳には「文四良」とも記されている。
いつの時代からか「文化峠」の文字が使われるようになった。
峠であるが平坦な土地が多く、東西に塩の道、南北に岩改～香我美へ通じる道と交差しており、人通りも多く宿屋、店屋もあり塩の道の拠点として繁盛した。

そると・ろーど"塩の道"

時代を超えて塩の道
そこから何が見えますか
人の笑顔がゆきかって
明るい光が見えますか

アジサイ・山吹・春リンドウ
黒見の桜ご一行み
山のいろどりあざやかな
おばやん手作り竹べんとう

くねくね続く塩の道
命をつなぐ塩の道
時を結ぶ塩の道

黒見休憩所(塩の道桜公園)
この地はかつての天水田の跡
(天水田とは雨水だけで稲作を行う田)
広さ約1haにヤマザクラやオンツツジ、ツジキク、スミレ、またウメ、アジサイ、ヤマブキなど、四季の花々が歩いてくる人たちを迎えてくれる。

竹弁当
孟宗竹を半分に割り、赤飯・タケノコ・ゼンマイ・椎茸・おにぎり。季節の花も添えられている。

平家ヶ森
塩の道を歩いているとひときわ高く見える。
山頂に石灰岩の穴があり平家の岩屋と呼ばれている。
平家の落人が住んでいたと伝わり、ふもとの鎧谷は源氏と激しい戦があったといわれる。

塞の神塔
道祖神で峠道とか村境などに置いた。
サエノカミは"さえぎる"という意味で、妖怪悪神を塞ぎ糸合うハヤリ病など入ってこないように建てられたもの。

お堂の中の石版に七頭の馬の絵が刻まれている

花にうもれて二人並んで二人だけの写真を撮ろう

文化峠
物部から歩いてきてはじめて海が見える。
昔は土佐湾に浮かぶ舟の白帆が一望できた。

かます
藁で編んだ"むしろ"を二つ折りにして、縁を縫い綴じた袋。
湿気を吸収し通気性が良く、物の保存に適し穀物・塩・肥料などの保存や運搬に用いられた

丁石
目的地までの距離を記した石。
ほとんどは神社やお寺への距離が記されている。
文久、明治初期の建立が多い。
物資の運搬だけでなく、多くの人が参詣道として歩いた道。

蛇神伝説
千萱の武家の門前には、広さが一反ほどもある底が知れない大きな淵があり、いつも無気味な渦を巻き、「蛇神が住んでいる」といわれている。

昔から北向きの地蔵様は大変えらいといわれている。
昭和30年頃までお祭りが行なわれ前の河原で踊りなどで賑わっていた。

ハンミョウ「道教え」「道しるべ」とも呼ばれる昆虫。
ハンミョウは歩く人の前をふわ～っと飛んで着地してしばらく待ってまた同じように数メートル先に飛ぶ行動を繰り返す仕草が道案内しているようにたとえられている。

昔の川には橋がなく飛石で川を渡っていたためとても危なかった。
増水や事故で亡くなられた方の御霊を弔い地域をしずめ往来する旅人たちの安全を祈願するために川岸に建立されている。
左岸と右岸から見守って下さっている。

春はヤマザクラの咲く森を抜け
夏は蝉時雨に耳を澄ませ
秋は彼岸花や紅葉を楽しみ
凍てつく冬は霜柱を踏みながら…。
昔の人は厳しくつらい道のりの中にも何かの楽しみを見い出して、この道を歩いて行ったことだろう。

出典、参考文献(1～3)
○塩の道 案内帖
○香南のくらし(小中学校社会)
○高知新聞
○そると・ろーど「塩の道」
作詞 中谷元
○郷土編 ものがたり(小学校中学年)

No.128
2022.11.17